

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	香川大学
設置者名	国立大学法人 香川大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計		
教育学部	学校教育教員養成課程	夜・通信	113		180	293	13	
法学部	法学科（昼間コース）	夜・通信	133		62	195	13	
	法学部（夜間主コース）	①夜・通信	124		58	182	13	
経済学部	経済学科（昼間コース）	夜・通信	150		64	214	13	
	経済学科（夜間主コース）	①夜・通信	143		56	199	13	
医学部	医学科	夜・通信	132		90	222	19	
	看護学科	夜・通信	138		112	250	13	
	臨床心理学科	夜・通信	138		64	202	13	
創造工学部	創造工学科	夜・通信	113	24	167	304	13	
農学部	応用生物科学科	夜・通信	136		68	204	13	
(備考)								

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

大学ホームページにて公表 https://lo.st.kagawa-u.ac.jp/open_info/Lec_pract_exp.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	香川大学
設置者名	国立大学法人 香川大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/official/

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
常勤	四電エナジーサービス 株式会社理事	H27.10.1～ H29.9.30 H29.10.1～ R1.9.30 R1.10.1～ R3.9.30 R3.10.1～ R5.9.30	総務・労務担当
非常勤	藤本智子法律事務所弁 護士	R2.4.1～ R3.9.30 R3.10.1～ R5.9.30	内部統制・ダイバー シティ推進担当
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	香川大学
設置者名	国立大学法人 香川大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 香川大学シラバス作成ガイドラインを定め、授業開始の前年度末までに作成し公表している。</p>	
<p>授業計画書の公表方法</p>	<p>大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/campus-life/about-class/syllabus/</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 成績評価の基準と方法を授業科目毎にシラバスに明示し、学習成果を厳格に評価し単位を認定している。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	
<p>(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要) GPAを設定し、大学ホームページで公表している。 GPAは、「秀」から「可」までの各修得単位数と履修登録単位数をもとに算出している。 $GPA = \{(秀 \times 4) + (優 \times 3) + (良 \times 2) + (可 \times 1)\} \div 履修登録単位数$</p>	
<p>客観的な指標の算出方法の公表方法</p>	<p>大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/campus-life/about-class/about-record/</p>

<p>4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。</p>	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要) 学部毎に、卒業の認定方針、卒業要件を定め公表し、それらに基づき厳格に判定している。</p>	
<p>卒業の認定に関する 方針の公表方法</p>	<p>大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/bachelor_policy/</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	香川大学
設置者名	国立大学法人 香川大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/zaimu/
収支計算書又は損益計算書	https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/zaimu/
財産目録	—
事業報告書	https://www.kagawa-u.ac.jp/public/foundation/business/
監事による監査報告(書)	https://www.kagawa-u.ac.jp/public/foundation/audit/

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:) 対象年度:)
公表方法:
中長期計画(名称: 国立大学法人香川大学 第4期中期計画 対象年度: 令和4年度~令和9年度)
公表方法: 大学ホームページにて公表 (HP) https://www.kagawa-u.ac.jp/information/self_assessment/target/ (第4期中期計画) https://www.kagawa-u.ac.jp/files/8116/8023/0751/keikaku20230329.pdf

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/self_assessment/report/

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法: 大学ホームページにて公表 (HP) https://www.kagawa-u.ac.jp/information/self_assessment/evaluation-uni/ (直近の結果) https://www.kagawa-u.ac.jp/files/8516/7961/6089/R04_hyoukhoukokusyo.pdf

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名	教育学部
教育研究上の目的 (公表方法: 大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/)	(概要) 香川大学教育学部は、学校教員をはじめ教育者を養成し、広く教育界に貢献することを理念とします。今日の学校教育の現場には、急激な社会の変化の中で、教科に関する新しい学力をどのようにつけるか、子どもたち一人一人の自己実現をどのように支援できるかなど、人間形成に関するきわめて重要な課題があります。また急速な少子・高齢化、情報化社会の進展、切実さを増す環境問題、多文化社会における共生の在り方などの問題は、生涯にわたる教育の必要性和新たな教育的課題を生み出しています。このような教育に関する課題に柔軟かつ積極的に対処できるように、人間の発達・形成に関する教育研究を基礎に、教育に関する総合的な教育研究を行い、教育実践力を有する学校教育教員及び広く教育界で活躍できる人材の養成を目指します。
卒業の認定に関する方針 (公表方法: 大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/)	(概要) 香川大学教育学部学校教育教員養成課程では、その教育理念に基づき、豊かな人間性と教職への強い使命感をもつとともに、社会の変化やニーズを適切に踏まえ、学校教育が抱えるさまざまな現代的な教育課題に協働して対処することができる、専門的知識と実践的指導力を備えた教員を養成します。本課程を修了し、本学が送り出す学士(教育学)・21世紀型市民として身につけるべき能力・態度の到達基準は、次のとおりです。 ①言語運用能力 *日本語の言語表現を適切に理解し、自らの見解を口頭や文章でわかりやすく伝えることができる。 *一つ以上の外国語において、基礎的な能力を身につけている。 *子どもをはじめ他者との共感的なコミュニケーションをとることができる。 *教育に関わる自らの専門領域の魅力や可能性について、専門用語を用いて伝えることができる。 ②知識・理解 (21世紀型市民及び学士(教育学)として) *人類の文化、社会及び自然について幅広く基礎的な知識やスキルを持ち、論理的に考察できる学問的基礎を身につけている。 *教員として必要な教科及び教職に関する基本的な知識やスキルを身につけている。 *教員として必要な授業実践に関する基本的な知識やスキルを身につけている。 *子どもの多様性と教育プロセスの複雑性について理解している。 ③問題解決・課題探求能力 *21世紀社会の現状を理解し、その課題と解決策を自己と関連づけて探求できる。 *学校や学級、子どもの実態、また様々な教育の現実から、課題を探り出すことができる。 *自らの教育実習等での授業実践を振り返り、自己の課題と可能性について探求できる。 ④倫理観・社会的責任 *市民としての責任ある行動をとり、社会において自己の担うべき役割について探求する姿勢を身につけている。 *教員として必要な倫理観や道徳を身につけ、社会の創造的な形成者として、教育を担うことができる。

⑤地域理解

*国際的な視野を持ち、ローカルスケールから大陸スケールに至る重層的な地域の概念を理解している。

*地域の一般的な特性を理解するとともに、「地元」の独自性を説明できる。

*地域理解と自らの専門領域を関係づけることができる。

⑥教職に対する使命感

*教育への情熱をもち、教員としての資質能力を高め、自ら成長しようとする姿勢を身につけている。

*多様な教育論を踏まえて、教職の意義について理解している。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表

https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）

（概要）

香川大学教育学部学校教育教員養成課程は、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を育成するために、全学共通科目（32 単位以上）と学部開設科目（109 単位以上（幼児教育コース）及び 103 単位以上（小・中学校教育コース）から構成される教育課程を編成・実施します。学部開設科目の専門科目の内訳は、以下のとおりです。

幼児教育コース：

〔教職基礎科目〕（16 単位以上）、〔教育内容の指導方法に関する科目〕（21 単位以上）、〔教職総合科目〕（20 単位以上）、〔教職発展科目〕（52 単位以上）

小学校教育コース（教育課題探究分野、教科教育分野）：

〔教職基礎科目〕（16 単位以上）、〔教科教育科目〕（36 単位以上）、〔教職総合科目〕（20 単位以上）、〔教職発展科目〕（31 単位以上）

小学校教育コース（特別支援教育分野）：

〔教職基礎科目〕（16 単位以上）、〔教科教育科目〕（36 単位以上）、〔教職総合科目〕（21 単位以上）、〔教職発展科目〕（30 単位以上）

中学校教育コース（副免：小学校）：

〔教職基礎科目〕（16 単位以上）、〔教科教育科目〕（36 単位以上）、〔教職総合科目〕（21 単位以上）、〔教職発展科目〕（30 単位以上）

中学校教育コース（副免：特別支援学校）：

〔教職基礎科目〕（16 単位以上）、〔教科教育科目〕（36 単位以上）、〔教職総合科目〕（22 単位以上）、〔教職発展科目〕（29 単位以上）

中学校教育コース（副免：中学校技術・家庭、高校情報）：

〔教職基礎科目〕（16 単位以上）、〔教科教育科目〕（36 単位以上）、〔教職総合科目〕（19 単位以上）、〔教職発展科目〕（32 単位以上）

進級に関する要件はありませんが、3 年次の必修科目である「教育実習」を受講するには、2 年次までに 60 単位以上習得している等が条件となります。卒業要件単位数は 141 単位以上（幼児教育コース）及び 135 単位以上（小・中学校教育コース）です。

本学部の教育体制の主な特徴は、4 年間において「学校理解」「子ども理解」「授業理解」「教職理解」の 4 層からなる、一貫した教員養成カリキュラムを整えていることです。

1 年次には全学共通科目を中心とした学びを通じて、幅広く基礎的な知識や能力、教養を身に付けつつ、学校訪問や教職基礎科目における学びを通じて学校を理解しま

す。2年次には観察者としてではなく、子どもと直接関わる機会を通じて子どもを理解します。3年次には「教育実習」を通じて、実際に教育現場で授業を行うことにより授業を理解します。そして4年次には、教職発展科目においてこれまでの学びを振り返るなかで教職そのものを理解します。また実地教育が本格化する2・3年次には、各教科の指導法や教育法など模擬授業を含む教科教育科目を配置し、学生の授業実施に対する支援を行います。なお、カリキュラム・ポリシーに係る教育課程については、カリキュラムマップに詳細に示しています。

学修成果については、厳格な成績評価（5段階評価、GPAの活用）を行い、シラバスに記載している方法によって、各授業科目の到達目標の達成度で評価します。基本的に講義科目では修得した知識の理解度を、演習・実習科目では知識を教育現場に応用する能力や教育現場での対応力を評価します。また、卒業研究では課題を設定し解決する実践的能力を総合的に評価します。なお、各学生に冊子「教師になるための学びの計画と履歴」が配布され、1年次から4年次にかけて必要事項を記入していくことで、教師に求められる資質の修得状況を自己評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表

https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/)

（概要）

◇大学入学までに、以下のような学力・能力・資質等を備えている学生を求めています。

①知識・技能

*高等学校等における幅広い学習に裏付けされた知識・技能の総合力と学ぶ力

②思考力・判断力・表現力

*学校教育に携わる上で基盤となる論理的思考力や判断力、根拠に基づいた科学的思考力や批判的思考力

*多面的な視点から思考し、自分の考えを他者にわかりやすく伝える表現力

③主体性・多様性・協働性

*主体的に多様な他者とかかわり、他者の意見や価値観を尊重し相互理解に努めようとする協働性やコミュニケーション能力

④関心・意欲・態度

*学校教育に高い志と強い関心を持ち、継続して意欲的に課題に取り組むことができる能力

*様々な課題にチャレンジする積極性を持ち、経験の積み重ねを通して将来へのビジョンの構築に努める能力

⑤倫理観・社会的責任

*教育者を目指す者として、また社会の構成員としての自覚と責任を持ち、自己が果たす役割や倫理観・社会的責任を理解できる能力

◇大学入学までに修得が期待される内容

ボランティア活動や学校内外での諸活動で教育に関する何らかの実践を経験するなど、子どもの理解と教育に携わる意欲を持ってください。

教育者を目指す者として他者の意見や価値観を尊重し、他者を思いやることのできるコミュニケーション能力が必要とされるので、幅広い視野と主体性・協働性を養い、自分の考えを表現できるような力を身につけておいてください。

学部等名 法学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/ ）
<p>（概要）</p> <p>香川大学法学部は、四国で唯一の国立大学法学部であり、高等裁判所をはじめとする重要な官公庁の位置する地の利を活かし、全国的にも高い評価を受ける教育研究を行うことを目指しています。</p> <p>香川大学法学部は、開かれた自由で民主主義的な社会を支える公共的市民を育てます。さらに、法学的素養を備えた専門職業人を養成します。</p> <p>夜間主コースにおいては、社会人としての幅広い判断力や、専門実務能力である政策遂行能力を育成します。</p>
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/ ）
<p>（概要）</p> <p>香川大学法学部では、その教育理念に基づき、開かれた自由で民主主義的な社会を支える公共的市民、法学的素養を備えた専門職業人を育成します。すなわち、世界の多様性とそこから生ずる諸問題を把握し、その解決に向けての法律学・政治学の基本的理念の知識を適切に用いて自他の尊厳を守ることができる人間を育成します。本学部を修了し、本学が送り出す学士（法学）・21世紀型市民として身につけるべき能力・態度の到達基準は次の通りです。</p> <p>①言語運用能力</p> <ul style="list-style-type: none"> * 国際的視野を持ち、外国語での読み書きなどのコミュニケーションのための基礎的能力を身につけている。 * 法学・政治学分野において求められる基礎的な文章技術、対話作法を修得している。 <p>②知識・理解（21世紀型市民及び学士（法学）として）</p> <ul style="list-style-type: none"> * 法学・政治学の分野で求められる正義、人権、自由、平等などの基本理念について基礎的知識を修得している。 * 実定法分野・政策科学分野の概要及び主要な解釈理論と争点について基礎的知識を修得している。 * さらに、これらの基礎的知識を一般社会人に対して説明する能力を身につけている。 * 学問に対して積極的に取り組み、自らの興味関心を形成することができる。 <p>③問題解決・課題探求能力</p> <ul style="list-style-type: none"> * 21世紀社会において市民に求められる歴史・文化の知見を身につけている。 * 紛争解決のための基礎的スキルを修得している。 * 自ら問題点を見出し、解決に向けた手段、手続きを見出すことができる。 * 政策的課題の発見と実務的な解決を探る能力としての政策マインドと政策的な課題解決のための基礎的スキルを身につけている。 <p>④倫理観・社会的責任</p> <ul style="list-style-type: none"> * 専門的職業人、公共的市民としての倫理観・社会的責任の自覚を形成している。 * 権利の主体として、また公共的市民として自他を尊重すべきことを自覚している。 * 公権力や社会的権力の濫用を監視し、適切に問題解決に努めるべきことを理解する。 <p>⑤地域理解</p> <ul style="list-style-type: none"> * 地域社会の現状に関心を持ち、その法的・政策的課題を発見あるいは理解するための基礎的な知識を身につけている。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/ ）

(概要)

◇昼間コース

香川大学法学部は、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を育成するために、全学共通科目（34単位以上）と学部開設科目（94単位以上、内訳は、必修科目「演習」6単位、選択必修科目16単位以上、選択科目30単位以上、自由科目42単位以上）から構成される教育課程を編成・実施します。卒業要件単位は128単位以上とします。

法学部の教育体制の主な特徴は、1) 4年一貫の少人数教育によるきめ細かな指導を特に重視していること、2) 全ての学生が2年次に「法律職コース」「公共政策コース」「企業法務コース」のいずれかを選択して、将来の進路を意識した体系的な授業科目の履修を可能にすること、3) 実務家の講義やインターンシップ制度を通じて、学術的・理論的な知識と実践的な知識を繋げる教育を行うことにあります。

また、法科大学院進学を希望する学生向けに「法曹プログラム」が設けられています。

法学部では、法学教育を通じて人間形成のプロセスを支援・推進し、学問に触れる喜びを伝え、自ら「考える力」＝問題発見・解決能力を育む教育を行っています。1年次は全学共通科目で幅広い知識を身につけるとともに、学部開設科目では、法学・政治学における基礎的知識の習得のために、入門科目を学びます。2年次以降は、選択したコースにおいて指定された授業科目の区分に従って、公法系科目、私法系科目、政治系科目を学び、専門的知識の習得と専門的応用力の養成を行います。特に3年・4年次に配当された必修の演習（ゼミ）を通じて専門分野をより深く探求するなかで、それぞれの問題を発見し、解決する能力の育成を目指します。加えて、法文書作成Ⅰ・Ⅱを通じて、実践的かつ専門的な文章を読み書く力を養います。なお、カリキュラム・ポリシーに関係する教育課程については、カリキュラムマップを用いて詳細に明示しています。

学習成果の評価は、基本的に講義科目では習得した知識の理解度、身につけたリーガルマインドの深さで、「演習」をはじめとする少人数科目では、専門分野に対する習熟度、学習に対する取り組み度合いで、「卒業論文」では、研究内容や形式について教員ごとに設定する単位認定方針に沿った総合評価で実施し、厳格な成績評価（5段階評価、GPAの活用）で行います。シラバスに記載している方法によって、各授業科目の到達目標の達成度で評価します。

◇夜間主コース

香川大学法学部は、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を育成するために、全学共通科目（28単位以上）と学部開設科目（96単位以上）から構成される教育課程を編成・実施します。卒業要件単位は124単位以上とします。

法学部の教育体制の主な特徴は、1) 少人数および双方向の教育によるきめ細かな指導を重視していること、2) 情報処理能力、外国語実用能力、他の専門分野の基礎・概論の学習等について、昼間コースの学生に準じた配慮を行うとともに、昼間開講の学部開設科目の履修を可能にすること、3) 他学部で開設されている専門分野の履修を通じて、異なる専門分野を学べる途を拓くことにあります。

法学部では、社会人としての幅広い判断力や、専門的実務能力たる企画力、政策遂行能力を育成する教育を行っています。1年次は全学共通科目で幅広い知識を身につけるとともに、学部開設科目では、法学の基礎的知識の習得のため、法学入門を学びます。「総合法政コース」の一コース制をとる夜間主コースでは、1年次から、公法系科目、私法系科目、政治系科目を学び、専門的知識の習得と専門的応用力の養成を目指します。また、法学部指定の経済学部開設科目を学ぶことで、異なる専門分野の知識を習得します。特に3年・4年次に配当された演習（ゼミ）を通じて専門分野をより深く探求するなかで、それぞれの問題を発見し、解決する能力の育成を目指します。なお、カリキュラム・ポリシーに関係する教育課程については、カリキュラムマップを用いて詳細に明示しています。

学習成果の評価は、基本的に講義科目では習得した知識の理解度、身につけたリー

ガールマインドの深さで、少人数科目である「演習」では、専門分野に対する習熟度、学習に対する取り組み度合いで、「卒業論文」では、研究内容や形式について教員ごとに設定する単位認定方針に沿った総合評価で実施し、厳格な成績評価（5段階評価、GPAの活用）で行います。シラバスに記載している方法によって、各授業科目の到達目標の達成度で評価します。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：：大学ホームページにて公表
https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）

（概要）

◇入学者に求める学力・能力・資質等

大学入学までに、以下のような学力・能力・資質等を備えている学生を求めています。

①知識・技能

*高等学校等における幅広い学習に裏付けされた知識及び技能の総合力と学ぶ力

②思考力・判断力・表現力

*物事をさまざまな角度からとらえ、筋道を立てて考える能力

*紛争解決及び政策立案のために必要な論理的な思考力と判断力

*文章や議論の中で自分の意見を積極的にかつ説得力を持って表現できる能力

*相手の意見からも学び、議論をリードし発展させることのできる能力

③主体性・多様性・協働性

*主体的に多様な他者とかわり、他者の意見や価値観を尊重し相互理解に努めようとする協働性やコミュニケーション能力

④関心・意欲・態度

*正義と衡平を追求しそれらを社会に実現しようとする意欲と態度

*現代社会の動きに常に関心を持ち、書物や新聞を通して、広く社会で生じていることに対する問題意識を深め、自分の意見を形成できる能力

⑤倫理観・社会的責任

*社会の構成員としての自覚と責任を持ち、自己が果たす役割や倫理観・社会的責任を理解し、自律的に行動できる能力

◇大学入学までに修得が期待される内容

本学部に入学者を希望する人は、入学後の教育に対応できる素質を養うため、高等学校において文系・理系にとらわれない幅広い学習をしてください。高等学校で学ぶことは、大学教育の前提となるものです。まずは国際的な視野とコミュニケーション能力を重視することから、英語及び国語の基礎的な能力を身につけておく必要があります。また法学・政治学は社会科学ですから、地理・歴史あるいは公民など社会科学の科目もしっかり学んでください。さらに法学・政治学に必要な論理的思考力は数学・理科の学習によって培われます。万遍なく学んでください。

◇選抜方法の趣旨

○一般選抜

*前期日程

大学入学共通テストでは、基礎的な学力をみるために5教科7科目又は6教科7科目（理科の選択科目によっては5教科8科目又は6教科8科目）を課しています。学力試験では、論理的思考力を測ることのできる数学又は国際的コミュニケーション能力を測ることのできる英語を課します。

*後期日程

大学入学共通テストでは、基礎的な学力をみるために5教科7科目又は6教科7科目（理科の選択科目によっては5教科8科目又は6教科8科目）を課しています。個別学力検査では、高い論理的思考力と文章によるコミュニケーション能力を持った学生を選抜するため小論文試験を課します。

○特別選抜

＊学校推薦型選抜Ⅰ（大学入学共通テストを免除する学校推薦型選抜）

論理的思考力とコミュニケーション能力をみるため小論文と面接を行います。特に、面接はグループ・ディスカッション方式で、現代社会に対する鋭い問題意識、創造的な思考力、的確な表現力と説得力を重視します。

＊学校推薦型選抜Ⅱ（大学入学共通テストを課する学校推薦型選抜）

基礎学力に加えて現代社会に対する関心をみるため、大学入学共通テストの国語に加え、論理的思考力を測ることのできる数学又は国際的コミュニケーション能力を測ることのできる外国語のいずれかにより評価します。また、調査書の審査では、地歴・公民の成績を重視し、特記事項により主体性・多様性・協働性やコミュニケーション能力・教養などを評価します。具体的には、文化活動、スポーツ活動、生徒会活動、クラブ活動、海外留学体験、ボランティア活動、英語検定、簿記検定、漢字検定などにおいて特に顕著な実績を挙げているものを評価します。

＊社会人選抜（夜間主コース）

面接と小論文を通じて、「入学者に求める学力・能力・資質等」を判断し、面接ではさらに法学部の志望動機や働きながら勉学する意欲を確認します。

＊私費外国人留学生選抜

面接と小論文（日本語）により、法学部で勉学するために必要な日本語のコミュニケーション能力と法律・政治の素養をみます。面接では志望動機や勉学する意欲を確認します。

＊国際バカロレア選抜

国際バカロレア認定校で学び、国際バカロレア資格（IB フルディプロマ）を取得した者を対象に、書類審査と面接を行い、総合的に判定します。面接では志望動機や勉学する意欲を確認します。

○編入学

＊第3年次編入学試験

編入学試験（3年次に編入）は、小論文と英語の筆記試験と面接により、3年次編入に必要な学力、法学・政治学の知識、論理的思考力、コミュニケーション能力をみます。面接では志望動機や勉学する意欲を確認します。

学部等名 経済学部

教育研究上の目的（公表：大学ホームページにて公表

https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/)

（概要）

経済や経営に関する世界水準の研究教育活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人を養成し、地域社会をリードするとともに共生社会の実現に貢献することを理念とします。学士課程では、豊かな人間性と高い倫理性の上に、幅広い基礎力と経済や経営に関する専門知識や多様な価値や文化に対する深い理解に支えられた課題探求能力を備え、国際的な視野で地域社会において活躍できる進取の気象と共生の精神に富んだ教養豊かな経済人を育成することを目指します。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表

https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/)

（概要）

教育理念に基づき、経済や経営に関する専門知識を基に、望ましい社会の実現に向けて、諸課題の探求・解決にあたる能力・技能を身につけ、崇高な倫理観と人間性に富み、地域に根ざしながら世界と連携し共生する進取の気象に富んだ教養豊かな経済人を育成します。

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>
<p>（概要） 全学共通科目（32 単位以上）と学部開設科目（92 単位以上、内訳は、学部基礎科目（22 単位以上）、学部専門科目（20 単位以上）、コース専門科目（20 単位以上）、自由科目（20 単位以上）、プロゼミナール（2 単位）、演習（4 単位）、卒業論文（4 単位））から構成される教育課程を編成・実施します。3 年次に演習を履修するためには、全学共通科目及び学部開設科目から卒業要件として認める 30 単位以上を修得していることが条件となります。卒業要件単位数は 124 単位以上とします。（昼間コース）</p> <p>全学共通科目（28 単位以上）と学部開設科目（96 単位以上、内訳は、学部基礎科目（6 単位以上）、コース専門科目（66 単位以上）、自由科目（20 単位以上）、演習 I（4 単位））から構成される教育課程を編成・実施します。3 年次に演習 I を履修するためには、全学共通科目及び学部開設科目から卒業要件として認める 30 単位以上を修得していることが条件となります。卒業要件単位数は 124 単位以上とします。（夜間主コース）</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>
<p>（概要） 入学者に求める学力、能力、資質等として以下のとおり示している。</p> <p>①知識・技能 ＊経済の仕組み、企業の活動、世界の社会・歴史などに関する専門性の高い学問を学び、研究活動を実践するための、高等学校等における幅広い学習に基づいた知識・技能・理解能力</p> <p>②思考力・判断力・表現力 ＊経済・社会におけるさまざまな現象において、解決を必要としている問題を発見・探求し、自分の考えを論理的にまとめて、他者にわかりやすく伝える思考力・判断力・表現力 ＊情報伝達の高度化・迅速化が進む社会において、必要な情報を収集・分析し、自ら情報を発信することができる能力</p> <p>③主体性・多様性・協働性 ＊柔軟な視野にたつて社会と積極的にかかわり、コミュニケーション能力を備え、多様な価値観を理解できる主体性・多様性・協働性</p> <p>④関心・意欲・態度 ＊経済・社会に関するさまざまな現象に興味を持ち、従来の考え方にとらわれず積極的に新しい物事に取り組んでいこうとする関心・意欲・態度</p> <p>⑤倫理観・社会的責任 ＊グローバル化する社会において、地域に根ざしながら世界と連携し共生するために、自己が果たすべき社会的責任や備えるべき倫理観を理解し体現する能力)</p> <p>◇大学入学までに修得が期待される内容 高等学校等において学ぶ、英語、数学、国語を中心とした基礎学力を身につけていることが必要です。英語の基礎学力は、大学において、国際的なコミュニケーション能力を本格的に養うために必要です。数学の基礎学力は、数学的な推理能力や論理的な能力を必要とする専門科目の講義を受けるために必要です。国語の基礎学力は、講義やゼミナールで文献を読んだり、レポートを書いたり、自分の意見を発表するために必要です。また経済・社会に対する関心を高め、論理的思考力を養うために普段から新聞を読んだり、読書習慣を身につけたりすることも重要です。 さらに主体性・多様性・協働性を養うために、文化活動、スポーツ活動、生徒会活動、クラブ活動、海外留学体験、ボランティア活動などに励むことも推奨します。加えて、</p>

国際的なコミュニケーション能力を養ったり、教養を育んだり、実務的な処理能力を高めたりするために、英語検定、簿記検定、漢字検定などの検定や資格の取得に励むことも推奨します。

学部等名 医学部医学科

教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表

https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）

（概要）

医学に関する問題を的確に把握し、その問題を自主的、積極的かつ総合的に解決するために必要な基本的知識及び基本的技術を修得する。

生涯を通じて自己学習する基本的態度・習慣を身につけ、自らを正しく評価できる客観的判断能力を養う。

医療を単に疾病の治療として把握するにとどまらず、予防・リハビリテーションをも含む包括的なものとしてとらえ、その背景にある精神的・社会的諸問題と関係づけて考える総合的な視野を養う。

卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表

https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）

（概要）

香川大学医学部医学科では、教育理念に基づき、医学を学ぶ上で必要な幅広い基礎的知識を基に、疾病の予防、診断、そして適切な治療ができる最新の医学的知識と診療能力・技能を身につけ、崇高な倫理観と人間性に富み、地域を理解し、世界に通用する医師並びに医学研究者を育成します。本学科を修了し、本学が送り出す学士（医学）・21世紀型市民として身につけるべき能力・態度の到達基準は、次のとおりです。

①言語運用能力

*医療現場・研究領域において適切なコミュニケーションを実践できる。

*患者に対して傾聴・共感の姿勢を持ち、患者中心の医療を実践できる。

*医療チーム・研究グループの一員として、時としてリーダーシップを発揮し、多職種連携による医療・研究を実践できる。

*国際的視野を持ち、世界標準の医療・医学研究に関する情報を収集できる。

②知識・理解（21世紀型市民及び学士（医学）として）

*特定分野にとらわれない幅広い教養、基礎科学・社会環境・病態生理に立脚した医学的知識を有している。

*症候から鑑別診断・確定診断にいたる、根拠に基づいた臨床推論を実践できる。

*医療現場における安全・安心に立脚した基本的診療能力・技能を有している。

③問題解決・課題探求能力

*医学の学びの中、あるいは臨床現場において、自ら問題点を見出し、解決することができる。

*積極性・向上心を持ち、自己主導型学習を実践できる。

④倫理観・社会的責任

*医師・医学研究者として、倫理観・使命感・責任感を持ち、省察的態度をもって行動ができる。

*専門職として生涯にわたり研鑽に努める姿勢を持っている。

*法令・社会的規範を遵守し、社会の一員として行動ができる。

⑤地域理解

*地域の保健・医療・福祉の実情を理解し、介護・福祉施設と緊密に連携して地域医療に積極的に参加できる。

<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>
<p>（概要）</p> <p>卒業の認定に関する方針に示した人材を育成するために、全学共通科目（31単位以上）と学部開設科目（160単位以上、内訳は、専門基礎科目（15単位）、早期医学（10単位以上）、学際医学（2単位以上）、基礎医学（30単位）、社会医学（6単位）、統合講義等（40単位）及び臨床医学（57単位））から構成される教育課程を編成・実施します。卒業要件単位数は191単位以上とします。階層的カリキュラムを実質化するため、年次ごとの進級要件を定め、年度末に厳格な進級判定を行っています。講義科目では修得した知識と理解度を基本とし、実験・実習科目では知識を応用出来る能力と専門的技術・技能の習熟度を基本とし、厳格な成績評価（5段階評価、GPAの活用）を行います。シラバスに記載している方法によって、各授業科目の到達目標の達成度で評価します。ただし、自由科目では、「了」をもって合格とします。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>
<p>（概要）</p> <p>大学入学までに、以下のような学力・能力・資質等を備えている学生を求めています。</p> <p>①知識・技能</p> <p>* 医学の専門知識と技能を習得するための基盤となる、高等学校等における幅広い学習に裏付けされた知識・技能</p> <p>②思考力・判断力・表現力</p> <p>* 情報の収集と評価、それに基づく自らの意見形成のための論理的思考力と判断力、及び形成した意見を他者へわかりやすく伝え、実行に移すための表現力</p> <p>③主体性・多様性・協働性</p> <p>* 医学に関する問題を自ら抽出し、多面的な視点から考察し、他者と協力して問題解決に当たるために必要な主体性・多様性・協働性</p> <p>④関心・意欲・態度</p> <p>* 進歩を続ける医学、医療の専門知識と技能に対する関心、生涯にわたりそれを学び続ける意欲、そのために必要な自己主導型学習態度</p> <p>⑤倫理観・社会的責任</p> <p>* 尊い人命を預かる医療者として、また、医学と医療の継承と発展を担う医学者として求められる高い倫理観</p> <p>* 医師・医学研究者としてのみならず社会の一員としても法令や社会的規範を遵守して行動できる社会性</p>

<p>学部等名 医学部看護学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>
<p>（概要）</p> <p>看護の対象である人間としての権利と自由を尊重し、思考力、判断力、行動力を高めることができる能力を養う。</p> <p>看護の問題を総合的に判断し、解決できる基本的な知識及び看護実践能力を養う。</p> <p>生涯を通じて自己啓発し、看護を批判的に分析し、建設的・創造的に発展させることのできる基礎的能力を養う。</p> <p>看護活動を通して教育、研究、管理を担い、及び国際貢献ができる能力を養う。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>

(概要)

香川大学医学部看護学科では、教育理念に基づき、生命の尊重を基本として、看護の問題を総合的に判断し解決できる知識や実践能力を養い、国際的な幅広い視野で地域保健医療の向上に寄与できる看護職者を育成します。本学科を修了し、本学が送り出す学士（看護学）・21世紀型市民として身につけるべき能力・態度の到達基準は、次のとおりです。

①言語運用能力

*対象者の意思決定を支えながら、実施する看護の根拠や方法に理解を得るためのコミュニケーション能力を身につけている。

*チーム医療の中で、多職種と協働・連携できる能力を身につけている。

*国際的視野を持ち、諸外国の看護に関する情報を収集する基礎的能力を身につけている。

②知識・理解（21世紀型市民及び学士（看護学）として）

*人間理解に必要となる幅広い視野と知識を基盤とし、看護の対象を包括的に捉える専門的・学際的知識と技術を有している。

*根拠に基づいた看護を実践するための理論的知識や批判的思考を備えている。

*安全・安心で効果的な看護を提供するための基本的能力・技術を有している。

③問題解決・課題探求能力

*対象の健康課題を評価して、専門的知識と技術を基礎に解決することができる。

*看護の学びの中で、自らの課題を見つけ探求することができる。

④倫理観・社会的責任

*看護職として、対象の多様な価値観や信条及び生活背景を尊重し、擁護する姿勢を身につけている。

*専門職として生涯にわたり研鑽に努める姿勢を持っている。

*法令・社会的規範を遵守し、社会の一員として行動できる。

⑤地域理解

*地域の保健・医療・福祉に関心を持ち、看護の役割やあり方を理解して、地域に貢献できる。

教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）

(概要)

香川大学医学部看護学科は、卒業の認定に関する方針に示した人材を育成するために、全学共通科目（28単位以上）と学部開設科目（99単位以上、内訳は、専門基礎科目（26単位）、専門科目（73単位））から構成される教育課程を編成・実施します。卒業要件単位数は128単位以上とします。さらに養護教諭課程を編成・実施します。卒業要件に加えて、養護教諭課程は31単位修得していることが資格取得条件となります。

学修成果の評価は、基本的に講義科目では修得した知識の理解度で、演習・実習科目では知識を応用出来る能力と専門的技術・技能の習熟度で、看護研究ではテーマの設定、分析、論文作成の総合評価を実施し、厳格な成績評価（5段階評価、GPAの活用）で行います。シラバスに記載している方法によって、各授業科目の到達目標の達成度で評価します。ただし、一部の自由科目では、「了」をもって合格とします。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表
https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）

<p>(概要)</p> <p>大学入学までに、以下のような学力・能力・資質等を備えている学生を求めています。</p> <p>①知識・技能</p> <p>*高等学校等における幅広い学習に裏付けされた知識・技能の総合力と学ぶ力</p> <p>②思考力・判断力・表現力</p> <p>*看護の対象を包括的に捉え、問題解決するための論理的思考力や判断力、根拠に基づいた科学的思考力や批判的思考力</p> <p>*多面的な視点から思考し、自分の考えを他者にわかりやすく伝える表現力</p> <p>③主体性・多様性・協働性</p> <p>*主体的に多様な他者とかかわり、他者の意見や価値観を尊重し相互理解に努めようとする協働性やコミュニケーション能力</p> <p>④関心・意欲・態度</p> <p>*人々の健康を支援するために看護に高い志と強い関心を持ち、継続して意欲的に課題に取り組むことができる能力</p> <p>*看護専門職として国内外を問わず社会に発信し、生涯にわたり学び続ける態度</p> <p>⑤倫理観・社会的責任</p> <p>*尊い人命を預かる看護専門職者として、また社会の構成員としての自覚と責任を持ち、自己が果たす役割や倫理観・社会的責任を理解できる能力</p>
--

<p>学部等名 医学部臨床心理学科</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>
<p>(概要)</p> <p>人間と人間を取り巻く環境についての幅広い基礎知識の上に、心理学・臨床心理学の専門的知識と技能を修得する。</p> <p>心理学・臨床心理学に加えて医学の基礎を学び、医療・保健分野を中心とした実習経験を積むことで、心理学・臨床心理学と医学を相互に関連付ける基本的技能と能力を修得する。</p> <p>地域の相談者に対して傾聴する技能、共感的なコミュニケーションの技能、心の問題を説明する上での心理学・臨床心理学上の実証的な研究方法を修得する。</p> <p>心理臨床における責任感と倫理観を身につけ、さまざまな人間の心の問題を理解し、多職種連携・協働の観点を踏まえつつ、適切な援助が出来る基本的技能と能力を修得する。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>
<p>(概要)</p> <p>香川大学医学部臨床心理学科では、教育理念に基づき、心理学及び臨床心理学の体系的な知識、心理臨床における基礎的实践力とともに医学的素養を有し、援助的コミュニケーション能力を発揮して、医療・教育・福祉等の分野で多職種連携・協働ができる資質を持った心理援助者を育成します。本学科を修了し、本学が送り出す学士（臨床心理学）・21世紀型市民として身につけるべき能力・態度の到達基準は、次のとおりです。</p> <p>①言語運用能力</p> <p>*人間性を尊重した対人支援の態度を持ち、共感的コミュニケーションを実践することができる。</p> <p>*クライアントや患者を中心にして、多職種と連携・協働しようとする態度を身につけている。</p> <p>*国際的視野を持ち、世界標準の心理学・臨床心理学領域の研究に関する情報を収集</p>

<p>することができる。</p> <p>②知識・理解（21世紀型市民及び学士（臨床心理学）として）</p> <ul style="list-style-type: none"> *心理学・臨床心理学の基礎知識を有している。 *医療・保健、教育、福祉等の心理臨床の現場において、心理援助者が必要とする基礎的知識・技能を有している。 *心理援助者が必要とされる職場における心理援助者の役割を説明することができる。 *身体と精神が相互に関連していることを理解するとともに、心理援助者にとって重要な疾患、障害についての知識を有している。 *21世紀を生きる市民が必要とする幅広い教養を有している。 <p>③問題解決・課題探求能力</p> <ul style="list-style-type: none"> *心理学・臨床心理学の学びの中、あるいは心理臨床の現場において、自ら問題点を見出し、解決することができる。 *心の問題に対して実証的な研究方法を適用することができる。 *積極性・向上心を持ち、自己主導型学習を実践することができる。 <p>④倫理観・社会的責任</p> <ul style="list-style-type: none"> *心理援助者として倫理観・使命感・責任感を持ち、省察的態度をもって行動することができる。 *専門職として生涯にわたり研鑽に努める姿勢を持っている。 *法令・社会的規範を遵守し、社会の一員として行動することができる。 <p>⑤地域理解</p> <ul style="list-style-type: none"> *地域社会における医療・保健、教育、福祉等の現状と課題に関心を持ち、心理援助者の専門的役割と関連付けて理解することができる。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p> <p>（概要）</p> <p>香川大学医学部臨床心理学科は、卒業の認定に関する方針に示した人材を育成するために、全学共通科目（36単位以上）と学部開設科目（98単位以上、内訳は、専門基礎科目（19単位）、専門科目（79単位以上））から構成される教育課程を編成・実施します。卒業要件単位数は、134単位以上とします。進級に関する要件はありませんが、「臨床心理学基礎研究Ⅰ・Ⅱ」、「心理実習Ⅰ（心理支援実習）」、「臨床心理学研究Ⅰ・Ⅱ」、「心理実習Ⅱ（チーム医療実習）」及び「卒業研究」を受講するには、医学部が定める要件を満たすことが必要です。</p> <p>学修成果の評価は、講義科目では修得した知識と理解度を基本とした評価を実施し、演習・実験・実習科目では講義科目で修得した知識を心理臨床の現場に応用できる能力と援助的なコミュニケーション能力の習熟度を基本とした評価を実施し、卒業研究では課題の設定や解決の実践的能力を核とした総合評価を実施し、厳格な成績評価（5段階評価、GPAの活用）を行います。シラバスに記載している方法によって、各授業科目の到達目標の達成度で評価します。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p> <p>（概要）</p> <p>大学入学までに、以下のような学力・能力・資質等を備えている学生を求めています。</p> <p>①知識・技能</p> <ul style="list-style-type: none"> *高等学校等における幅広い学習に裏付けされた知識・技能の総合力と学ぶ力 <p>②思考力・判断力・表現力</p> <ul style="list-style-type: none"> *人間の心理を深く理解し支援するための論理的思考力や判断力、根拠に基づいた科学的思考力や批判的思考力 *多面的な視点から思考し、自分の考えを他者にわかりやすく伝える表現力

<p>③主体性・多様性・協働性</p> <ul style="list-style-type: none"> *主体的に多様な他者とかかわり、他者の意見や価値観を尊重し相互理解に努めようとする協働性やコミュニケーション能力 *他者の気持ちを敏感に感じ取る感受性や共感的コミュニケーション能力 <p>④関心・意欲・態度</p> <ul style="list-style-type: none"> *心理的援助に高い志と強い関心を持ち、継続して意欲的に課題に取り組むことができる能力 *人間尊重の態度や深く温かい眼差しを持ち、他者との関わりを通して、自己理解を深め、自らの潜在的な資質を成長させようとする意欲 *大学卒業後もさらに高度な心理的援助の実践力を身につけ、心理援助者として、地域に貢献し、社会に役に立ちたいという意欲 <p>⑤倫理観・社会的責任</p> <ul style="list-style-type: none"> *人間の健康、適応、成長に関わる心理援助者として、また社会の構成員としての自覚と責任を持ち、自己が果たす役割や倫理観・社会的責任を理解できる能力
--

<p>学部等名 創造工学部</p>
<p>教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p> <p>（概要）</p> <p>創造工学部は、人間とその生活を取り巻く自然に焦点を当て、人間と自然が調和的に共生できる文化・安全・産業の創造を目指し、専門的基礎能力に裏打ちされた幅広い工学のバックグラウンドを持ち、国際社会で尊敬される良き市民としての個性豊かな技術者を育成することを目指す。</p>
<p>卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p> <p>（概要）</p> <p>創造工学部では、工学の基礎と専門分野にかかわる幅広い知識を持ち、技術者相互および社会と適切なコミュニケーションを行うことができ、さまざまなリスクを考慮しつつ、高い倫理観を持って新たな価値を創造することができ、地域を愛し、世界に通用する技術者を育成します。本学部を卒業し、本学が送り出す学士（工学）・21世紀型市民として身につけるべき能力・態度の到達基準は、以下のとおりである。</p> <p>①言語運用能力</p> <ul style="list-style-type: none"> *論理的かつ客観的な文書を作成することができる。 *多様な情報を適切に利用し、効果的なプレゼンテーションを行うことができる。 *工学的な課題について、基礎的な数理法則を用いて分析することができる。 *英語による情報収集能力、コミュニケーション能力を持っている。 *国際的視野を持ち、世界標準の科学技術に関する情報を収集できる。 <p>②知識・理解（21世紀型市民及び学士（工学）として）</p> <ul style="list-style-type: none"> *自然科学の基礎知識を持ち、その基本原理を理解している。 *工学的課題を解決するために必要な工学的基礎知識を修得している。 *人間、社会、環境、美などの多角的な視点を備えている。 <p>③問題解決・課題探求能力</p> <ul style="list-style-type: none"> *自主的、継続的に学習し、新たな課題を探求することができる。 *様々なリスクを把握・抽出し事前に対応策を講じ、想定外の事態にも対応することができる。 *専門分野において課題を認識し、多様な制約の下で、専門知識、技術を用いてチームとして問題を検討し、製品と利用者・社会との相互作用的な関わり及びリスク対応を含めた総合的な価値の創造につながる設計（デザイン）を企画、立案し、それを試作

<p>評価することができる。</p> <p>④倫理観・社会的責任</p> <p>*市民としての社会的責任を自覚して行動することができる。</p> <p>*高い倫理観を持ち、技術者としての社会的役割を担うことができる。</p> <p>⑤地域理解</p> <p>*地域の現状と課題に関心を持ち、自己と関連づけて問題を発見し、探求することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>
<p>（概要）</p> <p>創造工学部は、卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を育成するために、全学共通科目（32 単位以上）と学部開設科目（96 単位以上、内訳は、共通科目（19 単位以上：その内、倫理 1 単位、コミュニケーション能力 34 単位以上、デザイン思考能力 4 単位以上、リスクマネジメント能力 3 単位以上、数理的基礎能力・多角的思考能力 8 単位以上）、専門科目（コース専門科目 60 単位以上）、卒業研究又は卒業制作（8 単位）、及び自由科目（9 単位以上）から構成される教育課程を編成・実施する。3 年次後期より研究室に配属されるためには、3 年次前期までに所定の科目を 84 単位以上修得していることが必要である。卒業要件単位数は 128 単位以上とする。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/）</p>
<p>（概要）</p> <p>◇入学者に求める学力・能力・資質等</p> <p>大学入学までに、以下のような学力・能力・資質等を備えている学生を求めています。</p> <p>①知識・技能</p> <p>*高等学校等における国語、外国語、数学、理科などを中心に、幅広い学習に裏付けされた本学部の専門領域を学ぶために必要な基礎学力・技能</p> <p>②思考力・判断力・表現力</p> <p>*本学部の専門領域の分野を多角的かつ包括的に捉え、それぞれの問題を解決するための論理的思考能力や判断力、根拠に基づいた科学的思考力や批判的思考力</p> <p>*物事を多面的な視点から思考し、自分の考えを他者からもわかりやすく伝える表現力</p> <p>③主体性・多様性・協働性</p> <p>*主体的に多様な他者とかかわり、他者の意見や価値観を尊重し相互理解に努めようとする協働性やコミュニケーション能力</p> <p>④関心・意欲・態度</p> <p>*本学部の専門領域のいずれかの分野に興味関心を持って自ら積極的かつ継続的に課題に取り組む意欲と審美眼を持ち、身につけた知識・技術を分かりやすく表現し、共生環境創造、地域社会創造及び国際社会に役立てる意欲・態度</p> <p>*技術者として国内外を問わず社会に発信し、生涯にわたり学び続ける態度</p> <p>⑤倫理観・社会的責任</p> <p>*本学部の専門領域における技術者として、また社会の構成員としての自覚と責任を持ち、自己が果たす役割や倫理観・社会的責任を理解できる能力</p> <p>◇大学入学までに修得が期待される内容</p> <p>高等学校等において、国語、外国語、数学、理科などを中心に基礎学力を身につけておいてください。本学部の理念を理解し、技術専門職として、他者の意見や価値観を尊重し、他者を思いやることのできるコミュニケーション能力も必要ですので、生徒会活動やクラブ活動・ボランティア活動等を通して、幅広い視野と主体性・協働性を養い、自分の考えを表現できるような力を身につけておいてください。</p>

学部等名 農学部
教育研究上の目的（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/ ）
（概要） 先端的かつ総合的な生物科学を基礎に、自然と調和した安全で快適な地域社会を実現するための教育と研究を行い、豊かな人間性と国際的な視野、課題探求能力を備え、生物資源の生産と活用に関する科学と技術を総合的に理解し、生物科学を基盤とする産業界で幅広く活躍できる有為な人材を養成することを目指します。
卒業の認定に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/ ）
（概要） 生物資源の生産と活用に関する幅広い知識と技能を身につけ、科学的な思考に基づく課題設定力、国際感覚を備えた判断力及びコミュニケーション力を備え、多様で広範な社会の諸課題の解決に向けて柔軟な思考によって取り組むことのできる「農学の実践力」を持って国際的協働社会の一員として自覚的に行動出来る人材を育成します。
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/ ）
（概要） 卒業の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に示した人材を育成するために、全学共通科目（32単位以上）と学部開設科目（92単位以上、内訳は、導入科目（8単位）、共通基礎科目（19単位以上）、5コースに分かれた専門科目とコース実験科目（50単位以上）、高年次配当の展開科目（3単位以上）及び課題研究（12単位））から構成される教育課程を編成・実施します。2年次後期より5つのいずれかのコースに分属し、各コースにおけるより専門的な授業および実験・実習を習得していきます。コースに分属するためには、2年次前期までに所定の科目を20単位以上、また3年次前期より研究室に分属するためには、2年次後期までに所定の科目を62単位以上（うち、必修科目あり）修得していることが条件となります。卒業要件単位数は124単位以上とします。
入学者の受入れに関する方針（公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/ideal_3policy/ ）
（概要） 高等学校において、理科、数学、国語、英語を中心とした基礎学力を身につけておいてください。生物科学の様々な分野の学問を理解し、生物資源の生産と利用に関する専門科目を学ぶために理科と数学の基礎学力が必要となります。農学部では、生物資源の生産と利用に関する情報を理解し、自らの論理的思考及び判断をもってこれを説明できるプレゼンテーション能力とコミュニケーション能力を養うことを目標としています。これらを日本語だけでなく英語でも可能にするために国語と英語の基礎学力が必要です。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：大学ホームページにて公表（大学概要「プロフィール」） https://www.kagawa-u.ac.jp/information/outline/back_number/
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	5人	—					5人
教育学部	—	49人	24人	5人	人	人	78人
法学部	—	17人	6人	人	人	人	23人
経済学部	—	23人	16人	5人	人	2人	46人
医学部	—	53人	38人	6人	70人	人	167人
創造工学部	—	43人	28人	7人	6人	人	84人
農学部	—	32人	17人	人	8人	人	57人
地域マネジメント研究科	—	7人	4人	人	人	人	11人
附属病院	—	4人	8人	29人	57人	人	98人
その他	—	11人	11人	6人	人	人	28人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長			学長・副学長以外の教員				計
8人			222人				230人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法： http://www.kards.kagawa-u.ac.jp/search/index.html					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
教育学部	160人	172人	107.5%	640人	696人	108.8%	若干人	8人
法学部	160人	171人	106.9%	660人	686人	103.9%	20人	9人
経済学部	250人	256人	102.4%	1040人	1118人	107.5%	40人	8人
医学部	189人	193人	106.9%	999人	1036人	103.7%	25人	8人
工学部					12人			
創造工学部	330人	339人	102.7%	1360人	1444人	106.2%	40人	18人
農学部	150人	159人	106.0%	600人	637人	106.2%	若干人	1人
合計	1239人	1290人	104.1%	5299人	5629人	106.2%	125人	52人
(備考)								

b. 卒業者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
教育学部	177人 (100%)	10人 (5.6%)	155人 (87.6%)	12人 (6.8%)
法学部	167人 (100%)	10人 (6.0%)	133人 (79.6%)	24人 (14.4%)
経済学部	264人 (100%)	1人 (0.4%)	235人 (89.0%)	28人 (10.6%)
医学部	203人 (100%)	25人 (12.3%)	171人 (84.2%)	7人 (3.5%)
創造工学部	353人 (100%)	142人 (40.2%)	188人 (53.3%)	23人 (6.5%)
農学部	146人 (100%)	63人 (43.1%)	81人 (55.5%)	2人 (1.4%)
合計	1,310人 (100%)	251人 (19.2%)	963人 (73.5%)	96人 (7.3%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業者数	留年者数	中途退学者数	その他
教育学部	173人 (100%)	163人 (94.2%)	8人 (4.6%)	1人 (0.6%)	1人 (0.6%)
法学部	172人 (100%)	145人 (84.3%)	18人 (10.5%)	4人 (2.3%)	5人 (2.9%)
経済学部	262人 (100%)	221人 (84.4%)	30人 (11.5%)	5人 (1.9%)	6人 (2.3%)
医学部	198人 (100%)	171人 (86.4%)	24人 (12.1%)	3人 (1.5%)	0人 (0%)
創造工学部	338人 (100%)	287人 (84.9%)	36人 (10.7%)	11人 (3.3%)	4人 (1.2%)
農学部	152人 (100%)	135人 (88.8%)	9人 (5.9%)	7人 (4.6%)	1人 (0.7%)
合計	1295人 (100%)	1122人 (86.6%)	125人 (9.7%)	31人 (2.4%)	17人 (1.3%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要) 全ての授業科目について授業計画を作成し、授業実施の前年度に年間の授業計画とともに公表している。授業計画には、成績評価の方法を明示し厳格に単位認定をしている。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)				
成績評価の基準と方法を授業科目毎にシラバスに明示し、学習成果を厳格に評価し単位を認定している。				
卒業認定についても、学部毎に認定方針、卒業要件を定め公表し、それらに基づき厳格に判定している。				
学部名	学科名	卒業に必要となる 単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
教育学部	学校教育教員養成課程 幼児教育コース	141 単位	有・無	年 48 単位
	学校教育教員養成課程 小学校教育コース 中学校教育コース	135 単位	有・無	年 48 単位
法学部	法学科 (昼間コース)	128 単位	有・無	年間 44 単位 各学期 26 単位
	法学科(夜間主コース)	124 単位	有・無	年間 52 単位 各学期 30 単位
経済学部	経済学科(昼間コース)	124 単位	有・無	1. 2 年次年間 48 単位 3. 4 年次年間 44 単位
	経営システム学科 (昼間コース)	124 単位	有・無	1 年次は年間 48 単位 2 年次以降は年間 44 単位
	経済学科(夜間主コース)	124 単位	有・無	なし
	地域社会システム学科(夜間主コース)	124 単位	有・無	なし
医学部	医学科	191 単位	有・無	なし
	看護学科	128 単位	有・無	なし
	臨床心理学科	134 単位	有・無	なし
創造工学部	創造工学科	128 単位	有・無	24 単位
工学部	安全システム建設工学科	128 単位	有・無	22 単位
	電子・情報工学科	128 単位	有・無	22 単位
	知能機械システム工学科	128 単位	有・無	22 単位
	材料創造工学科	128 単位	有・無	22 単位
農学部	応用生物科学科	124 単位	有・無	年間 48 単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：大学ホームページにて公表 学生の理解度・到達度を客観的に測り、特待生の選考や履修単位の登録上限、早期卒業判定等に活用している。 https://www.kagawa-u.ac.jp/campus-life/about-class/about-record/		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/public/foundation/6628/ (7 校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること (第7号関係))
--

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
昼間主 (教育学部 法学部 経済学部 医学部 創造工学部 農学部)		535,800 円	282,000 円	円	
夜間主 (法学部 経済学部)		267,900 円	141,000 円	円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組 (概要) ・アドバイザー制度：学生からの学習・生活上の相談に応じるため、1年次から、10～30人程度の学生に対して、それぞれ担当の教員をアドバイザーとして配置している。 ・オフィス・アワー：学生の授業内容等に関する質問・相談に応じるため、教員が必ず研究室に在室している時間帯を設けている。 ・新入生対象合宿オリエンテーション：新入生同士の交流や、教員・上級生との交流によって、入学後できるだけ早く大学教育・大学生活に慣れてもらうため、新入生対象の合宿オリエンテーションを実施している。 ・新入生対象修学相談会：毎年、新入生を対象として、「修学相談会」を実施している。
b. 進路選択に係る支援に関する取組 (概要) ・キャリア支援センターにて、就職ガイダンス（説明会）開催、就職相談員による個別就職相談、求人・インターンシップ・OBOG 情報等の提供等を行っている。 全学共通科目にて、選択必修としてキャリア教育に関する授業科目を開講している。
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) ・保健管理センターにて、学生一人一人が充実した学生生活を送れるようサポートすることを目的に、心理相談（カウンセリング）を行っている。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：大学ホームページにて公表 https://www.kagawa-u.ac.jp/public/foundation/6628/
--

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「-」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード	F137110110310
学校名	香川大学
設置者名	国立大学法人 香川大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者（家計急変による者を除く）		552人	549人	579人
内 訳	第Ⅰ区分	294人	303人	
	第Ⅱ区分	167人	166人	
	第Ⅲ区分	91人	80人	
家計急変による支援対象者（年間）				14人
合計（年間）				593人
(備考)				

※ 本表において、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第1号、第2号、第3号に掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	
----	--

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等		
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—		
修得単位数が標準単位数の5割以下 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位数が標準単位数の5割以下)	—		
出席率が5割以下その他学修意欲が著しく低い状況	—		
「警告」の区分に連続して該当	19人		
計	28人		
(備考) 認定の取消を受けた者は24名であるが、2つ以上の理由に該当する者があるため人数の合計と一致しない。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遡って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。） 、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
年間	0人	前半期	後半期

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	—
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のもの限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が標準単位数の6割以下 (単位制によらない専門学校にあつては、履修科目の単位数が標準単位数の6割以下)	0人		
GPA等が下位4分の1	52人		
出席率が8割以下その他学修意欲が低い状況	13人		
計	65人		
(備考) 警告を受けた者は55名であるが、2つ以上の理由に該当する者があるため人数の合計と一致しない。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。